

経済振興委員会報告資料

アジア美術館 魅力向上に向けた
基本計画の検討状況について

令和 8 年 2 月
経済観光文化局

アジア美術館は、1999年(平成11年)にアジアの近現代美術を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館として開館して以降、その先駆的な取り組みによって、市民の貴重な財産となっているが、その価値や魅力を広く市民に届け切れておらず、十分に活かしきれていないことから、令和5年度より魅力向上の検討を行っている。

これまでの検討を踏まえ、アジア美術館の拡充先を「警固公園地下」としたうえで、令和7年度はアジア美術館の魅力向上に向けた基本計画策定に関する検討を行っており、有識者会議等からの意見を踏まえ、基本計画(原案)について報告するもの。

■ これまでのアジア美術館の魅力向上に向けた検討状況

- 令和6年 2月 経済振興委員会へ検討状況を報告(アジア美術館の現状と課題、課題解決の方向性)
- 令和6年 9月 経済振興委員会へ検討状況を報告(機能拡充の方向性、拡充先の条件整理)
- 令和6年 12月 経済振興委員会へ検討状況を報告(拡充先の土地の評価比較、警固公園地下駐車場の検証)
⇒拡充先について、複数の候補地を評価比較した結果「警固公園地下」を選定
- 令和7年 6月 経済振興委員会へ検討状況を報告(魅力向上の基本的な方針案)
- 令和7年 12月 経済振興委員会へ基本計画の検討状況を報告(施設整備について)

1 アジア美術館 施設拡充等基本計画(原案)の概要

※基本計画(原案)本文は参考資料参照

(1) アジア美術館の魅力向上の基本的な方針(案)

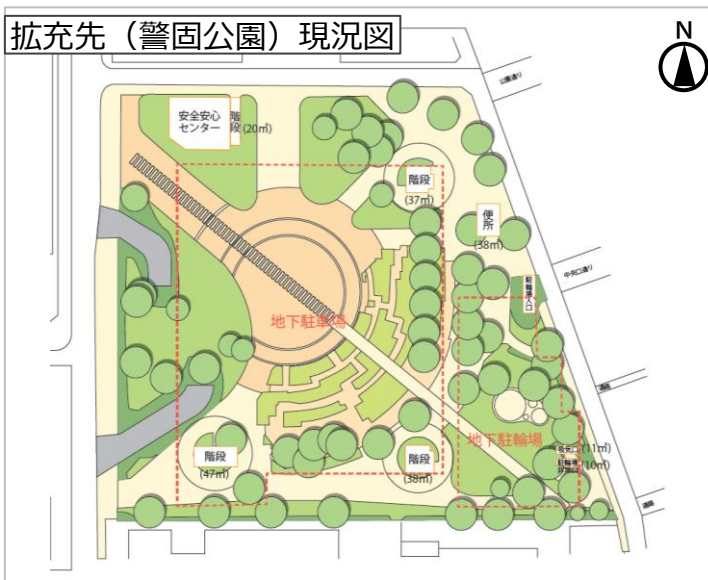
**アジア美術と出会い、その問いかけから、自分と世界を見つめる美術館
交流を通じて、アジア美術の発展と福岡市の都市の魅力向上に貢献する美術館**

<これからのアジア美術館の方向性>

1. 出会う・気づく — アジア美術と気軽にに出会う場 —
2. 楽しむ・見つめる — アジア美術を楽しみ、自分や世界を見つめる場 —
3. 伝える・拡げる — アジア美術の魅力を発信し、発展に貢献する場 —
4. 創る・挑む — アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場 —

(2) 拡充先の整備計画案

① 拡充先の概要



③拡充先の利用計画

2. 持続可能で安心・快適な美術館

- ①環境への持続可能な配慮
- ②その他の視点
 - ・快適に楽しめるユニバーサルデザイン
 - ・人と作品を守る高い防災性

アクセス（公園との動線等）等の考え方

来館者・公園来訪者のアクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・交通結節点を踏まえた、地上・地下からの、来館者の円滑なアクセスの検討や、公園来訪者の動線等を踏まえたアプローチやエントランス等の施設配置の検討
車両のアクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の道路事情を踏まえた、歩行者の安全に配慮した車両動線の検討（搬出入の車両、車いす使用者用駐車場 等） ・特に、搬出入車両の動線は、大型車が安全に通行可能な幅員を有する道路（警固公園通り）側、公園の西側となるよう検討する ・美術品等の搬出入時の利便性、セキュリティ等に配慮した車両動線計画

公園等との連携の考え方

公園との連携・一体化	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが憩える魅力的な文化的空間の創出に向け、これまで培われた公園のあり方を踏まえた、公園との連携や一体化を図る ・外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上の公園と地下の美術館をつなぐとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランスの整備 ・公園と周辺に開放された動線やまとまった広場空間、見通し、みどり空間といった既存の公園機能等の確保 ・既存機能(便所、駐輪場、安全安心センター)の継続を前提とした、公園の魅力や利便性の向上と、美術館の意匠性を両立する空間構成の検討 ・周辺施設と連携し、にぎわいを生み出す仕組みづくり
地域のニーズへの貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズへの貢献ができる取り組み

④地上の利用イメージ



⑤美術館の整備イメージ

地上について

- ・公園施設の建蔽率を考慮し、搬出入口や一時保管庫、各種機械室など管理運営上、最小限必要な諸室の配置を検討するとともに、象徴的なエントランスの確保について検討する。

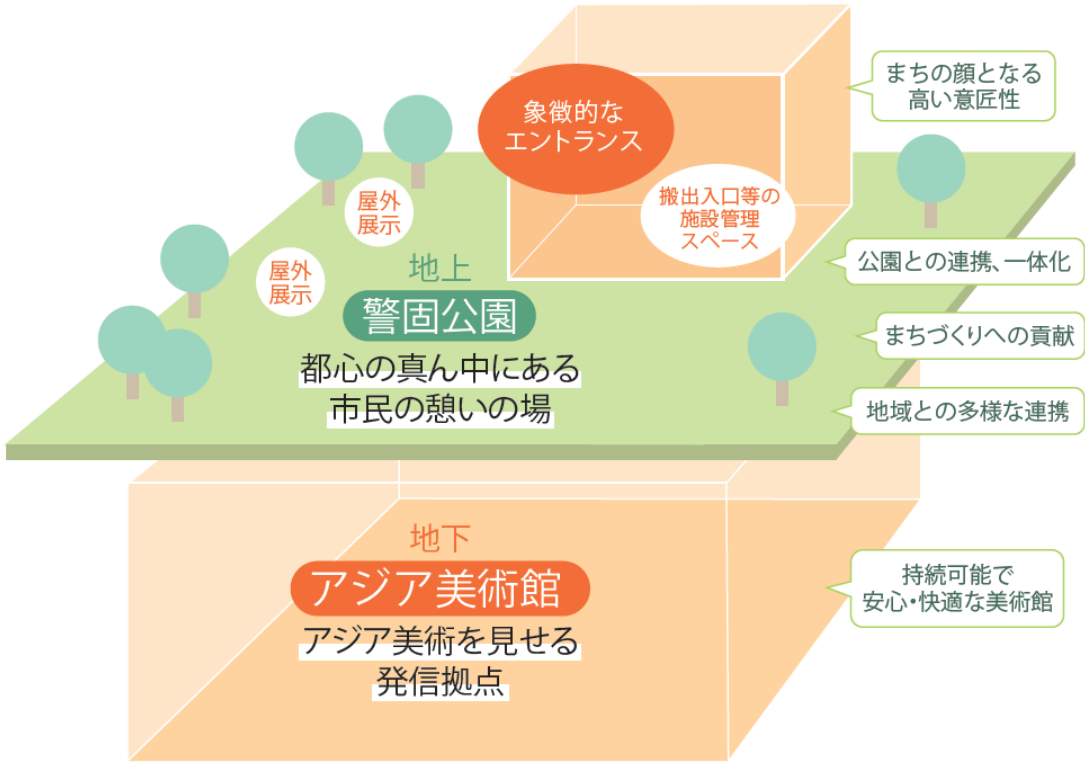
地下について

- ・既存の地下駐車場を再利用し、展示空間として活用するため、天井高さを確保するよう構造等を検討し、ギャラリーを中心とした諸室配置を検討する。
- ・その他の諸室については、現在のスロープ部等を活用した地下増築を含め検討する。

主な諸室の考え方

美術館活動等	必要と考えられる機能 ※面積については目安。今後の検討により変更	主な諸室イメージ ※室名は仮称
展示	・アジア美術の傑作を中心に、コレクション展に加え、多様な企画展や特別展等に柔軟に対応でき、大型作品をダイナミックに展示できる空間を備える展示室 ・作品の搬入から搬出まで円滑かつ安全に行える動線の確保 約3,000㎡（うち ギャラリー約2,000㎡）	ギャラリー、展示準備室、一時保管庫、搬出入口、トラックヤード 等
学び・体験	・展示やコレクションに関連したワークショップ活動等のイベントを行う ・団体見学や対話型アート鑑賞等の受け入れに十分に対応できる空間 約600㎡	多目的室、ワークショップ室、ボランティア室 等
エントランス、にぎわい・集客	・まちの顔となり、アートとの出会いを演出するアプローチやエントランス ・ナイトコンテンツやユニークベニュー等の活用も見込める十分な空間 約1,500㎡	魅力的な導入部分となる象徴的なエントランス、イベント等での飲食提供機能 等

全体床面積(目安)7,500～9,000㎡(参考:現地下駐車場の1層あたりの床面積約4,900㎡)
※ユニバーサル関連の諸室として医務室、授乳室等を設ける
※福岡市美術館の作品の活用等も今後の展示計画の中で検討



美術館の整備イメージ図

⑥浸水対策の考え方

- ・来館者の安全と市民の財産である美術品を守るため、地下空間に計画される美術館という特性を踏まえ、高潮や洪水等の影響を考慮した浸水対策を施設全体で講じる。あわせて、既存の地下の外壁の状況に応じて防水層の設置や止水対策を講じるなど、地下水の侵入防止対策を適切に行う。加えて、作品の一時的な収蔵・保管に係る一時保管庫は地上に配置するなど、バックアップ機能を備える。

浸水対策例	対象となる場所のイメージ
止水板	地上から地下へつながる開口部への浸水対策
防水シャッター	地上の車両搬出入口の浸水対策
防水扉	地下の展示室、機械室等の浸水対策

(3) 管理運営計画案

○ 拡充先の管理・運営の主な考え方

開館時間・開館日

- ・都心の賑わいの中心という天神エリアの特性や公園来訪者等の特性を踏まえ、ターゲットに合わせた開館時間や、展示室以外のスペースの夜間活用等、利用目的に応じた柔軟な運用を検討する。

施設の活用の考え方

- ・夜間や非展示時間帯も活かしながら、講演会、レセプション、企業イベント等のユニークベニューとしての利用を推進する。
- ・展示室以外でも楽しみ、滞在できるオープンなスペースを整備し、誰もが気軽に立ち寄り、さまざまな来館目的に応えられる運用を図る。
- ・作品保護や安全確保を前提に、ロビー等のパブリックスペースを柔軟に活用できる運営ルールを整備する。
- ・地上の公園と連携し、賑わいの創出につなげる。
- ・周辺の施設や企業と連携した、文化的なイベント等の実施を検討する。
- ・イベント等を通じて新たな来館層の掘り起こしと、アジア美術館の認知向上を図る。
- ・にぎわい創出やユニークベニュー等での活用のあり方については、今後検討していくが、展示される作品についての販売は行わないものとする。

その他

・広報活動の充実・デジタル活用

・安全安心の確保・効率的運営

2 施設拡充に向けた事業手法等の検討について

(1) 基本的な考え方

施設拡充の検討にあたっては、公共の財政負担の低減や施設の効率的な運営を図ることを基本に、多彩なデザイン提案を募ることができる設計者の選定手法や、来館促進や美術館運営、施設管理の効率化など整備、運営面における民間ノウハウの活用を含めた事業方法について、民間事業者等の意見を参考にしながら検討する。

想定される事業手法

- 分離分割発注 (従来方式) …行政主導で品質・仕様を細かくコントロールできる方式。設計→施工を別々に発注し、行政が段階的に意思決定する。
- DBO方式 (Design Build Operate) …行政は性能、要求水準を定めつつ、詳細の工夫は民間事業者任せ、設計、施工、維持管理、運営を民間に一括で発注する方式。
- PFI-BTO方式 (Build Transfer Operate) …民間事業者が資金を調達し、施設の建設後、公共に所有権を移転して、民間事業者が維持管理・運営する方式。

(2) 設計手法の検討について

これまでの施設拡充の検討や有識者意見等を踏まえて、設計手法の検討を実施。

拡充先における施設整備の基本的な方針に沿った施設とするためには、より魅力的な建築・空間デザインが必要であり、基本設計を対象とした公募を実施し、多彩なデザイン提案を募る。

有識者意見等

- ・地下駐車場の美術館への転用や都心の中心に位置する警固公園との一体化といった、事業の特殊性、先進性、立地条件等の観点から、建築家の創造性や専門的な知見を取り入れることが重要。
- ・建築家の発想を取り入れることで、拡充先が人々を惹きつけ、福岡の新たな顔としてふさわしい、高い意匠性を有する施設となることが期待できる。
- ・設計の多様性の向上につなげるため、多くの建築家の参加を可能にする設計者の選定方法や参加条件等の検討が必要。
- ・設計段階において運営まで含めた公募とした場合、運営会社と組める設計者に限定される可能性があり、少なくとも運営は切り離しておかないと、多くの建築家の応募が見込めない。
- ・美術館の根幹となる性能(展示環境や動線等)は、基本設計段階で学芸部門を担う市の意向を適切に反映する必要がある。
- ・地下駐車場という特殊な空間を活用することから、事業条件の不確実性が高いため、構造や設備等の要件整理やコスト・スケジュールの明確化が必要。

(3) 事業手法の検討について

基本設計以降の事業手法の検討にあたっては、コストや財政負担など定量的な評価のほか、施工の実現性や民間事業者の事業参画性などの観点から定性的な評価を行い、検討する。その中でも、エントランスなど、警固公園(地上部)に必要となる施設については、規模や配置、美術館としての統一的なデザイン性、地下構造物への影響等を踏まえ、設置手法を検討する。

3 今後の進め方

現在の検討状況を踏まえ、引き続き、有識者会議等を行いながら、アジア美術館の魅力向上に向けた基本計画策定に関する検討を進めていく。

